

# 廃棄物収集・運搬の効率化で先進的街づくり 小田急「WOOMS」快走

鉄道事業者にとって最もなじみ深い関連事業は沿線開発です。沿線住民を増やして通勤・通学や買い物で鉄道を利用してもらう。最近は駅ビルやホテル、駅型保育施設などを含めた「街づくり事業」の呼び名も定着しつつあります。

街づくり事業の話題を探す中で見つかったのが、小田急電鉄の「WOOAMS」（ウームス）。資源や廃棄物の収集・運搬を効率化する、典型的なソリューション（課題解決）型ビジネスです。東京都内で開かれた「資源循環EXPO」の小田急ブースで、経営戦略部の正木彈課長（ウェイストマネジメント事業WOOAMS統括リーダー）に戦略を聞きました。

# 交通 NEWS EYE

## 米・スタートアップと協業

デジタル化の紙情報の運搬回数が減

「循環型社会の実現に向けて、多岐にわたるアプローチの中から地域の現実的課題で、循環型社会実現の道を拓く『み』に着目した」（小田急のプレゼンテーションから）。これがWOOMS始動のきっかけです。

## ● 廃棄物収集が町の活力削ぐ

●廃棄物収集が町の活力削ぐ  
少々硬めの表現を、私  
なりにかみ砕きました。  
小田急沿線にて北沢（シリカ村）ともあります  
モキタ）という街があり  
ます。駅周辺には若者向  
けのカフェや劇場・古着  
店が立ち並びます。イン  
ターネット情報には、  
立ちはだかるのが廃棄物  
「シモキタは、関西でい  
えば大阪・ミニマのアメ  
リカ村」ともあります  
た。「北沢でお店をやり  
たい」と想うオーナーも  
多いのですが、最初に  
因になりましたとこ  
きなショッピングセン  
ターズは自分で探さ  
りません。ところが  
には見つからない。

ルが  
で、  
なはな  
簡単  
処理  
はノウハウがない。そこ  
でパートナーを探す中で  
行き当たったのが、ルビ  
ヨン・グローバル社。米  
国内に本社を置く、7年設立のスタートアッ  
プ（ベンチャー）企業。  
事業内容は「新規技術を  
活用した廃棄・リサイク  
ルリユーション」、つ  
はサポート。自治体や  
技術）を活用した廃棄物  
收集・運搬の革新です。 小田急はルビヨン社と  
事業提携して昨年2月  
「WOOOMS」のブランド  
名でウェブサイトマネジ  
メント事業（廃棄物管理業  
事務）への進出を発表し  
ました。とはいって、小田  
急が直接廃棄物処理に参  
り出すのではなく、役目を

タル」の一つ。アブリは  
廃棄物収集車に搭載する  
タブレット端末のブログ  
ラムで、車両ごとに地図  
やルート、新しい収集事  
件、ポットなどを表示しま  
す。

従来の紙ベースでは、  
収集車ごとにコースを組  
んでプリントアウト。回  
数は、4628回（前年  
7522回）

収後は処分場（受け取る  
チケットのデータを事務  
所に帰つて書き写し、確  
特に正月）が減った

座間市がWOOMSを  
採用しての成果。21年度  
上期第一で収集車の平  
均積載量は2.2t、前  
年同期の1.9tより増  
加しました。延べ運搬  
回数は、4628回（前年  
7522回）

現場から用品  
は、「年末年始の残業  
ヤレン

● WOOMSで働き  
効活  
て、地  
題を  
催し  
新規  
環境  
むつり  
用品  
ヤレン

「廃棄物処理は改善が必要な街のインフラ」と要約されました。小田急は、この問題点が判明したうえで、中間処理業者と最終処分場に運ばれます。小田急が業界界をリサーチしたところ、問題点が判明されました。

● アプリと管理用ポータル提供  
小田急が提供する 川県座間市。人口13万  
は、「WOOOMS」アプ 市の同市は、資源を

キュラーラー・エコノミー推進に係る連携と協力に関する協定」を結びました。サーキュラーラー・エコノミーは「循環型経済」

コンサルティングを手掛け、システムを提供します。  
「コナセ」は「コンサルティング」と「セイフティ」の  
ド・ウェイスト（「安全のない世界へ」）。  
WOOMSはWaste  
(廃棄物)、Zero

(ゼロ)、Odakyu (小田急)の合而成語。MはWの180度回転で、廃棄物を資源に変える事業内容を表現します。最後のSは、パートナーと組む複数形を表します。

（ショーン）柱に据え、ごみの減量に取り組みます。小田急は、座間駅前の社宅をリノベーションしたホシタニ二団地などで、座間市との協力関係が生まれ、9年3月に「子



効率的な資源収集を実現



多士済々のメンバーが集う小田急WOOMSチーム。前列右側が  
統括リーダーの正木課長です（画像・小田急電鉄）

サービスの基本はルビ  
ン社のシステムですが、  
小田急の担当者は多くが

「借りながら、インターネット検索などで廃棄物収集・運搬に革新的ノウ

世界に、もはや存在しないことを実感せられました。

## ●列車運行管理の発想が生きた

を見つけ出したそうです。

■筆者紹介■ 上里 夏生(こうざと・なつお)。42年間で鉄道を離れてから2019年に退職。現在は交通ジャーナリストとして鉄道、観光、自動車業界の機関誌やインターネットメディアに寄稿。モットーは「読んだ方が鉄道をもっと好きになる記事やコラム」。なお、本稿は交通新聞とは直接関係ない筆者の見解である。